

第 40 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2009 年 11 月 21 日～23 日（金沢大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：交通弱者対策（１）	
日付：11月22日（日）曜日、セッション時間： 9：00～10：30	
司会者名（所属）：大森宣暁（東京大学）	
討 議 内 容	セッション全体： 特になし
	（187）猪井博登（大阪大学）： 地方都市において、福祉有償運送からバス交通への転換を検討した研究である。そもそも、福祉有償運送利用者がバスや自動車を運転できるというのは前提がおかしいのではないかと感じたが、研究対象地である伊賀市では実質的には過疎地有償運送を兼ねているようである。市としては利用資格をどのように解釈しているのか、タクシーや行政バスがサービスを高められないのか、福祉有償運送とバスの選択というよりは福祉有償運送とタクシーの選択を考える方が良いのではないかと、などの質問があった。また、対象地域ではドア・トゥ・ドアの乗り合い型の DRT が望ましい公共交通ではないかという議論があった。
	（188）飛川明俊（岡山大学）： 車いすの道路走行環境について、車いす使用者と介助者が、どのようなバリアをどの程度負担に感じているのかを明らかにした。歩道有りの道路のみならず歩道なしの道路にも着目している点が新規性があり重要な研究である。歩道並みに安全な非歩道の道路はどのくらいの交通量の道路なのかという分析が今後可能であろう、介助者の方がより大きなバリアを感じている理由は車いす利用者にはけがをさせないように気を使うためである、マンホールや側溝など小さな凹凸は回避するのではないかと、手動車いすと電動車いすでは統計的な差はなかった、などの議論が行われた。
	（189）小島亜希子（東京電機大学）： 駅前広場における滞留行動の観測調査と、着座ニーズについてヒアリング調査で得られたデータを用いて、待ち行列理論と着座選択モデルを導入したシミュレーション分析により、駅前広場における着座装置の必要数の試算を行った。高齢化社会に向けて配置やデザインも考慮するとよいのではないかと、個人のパーソナルスペースを考慮することは今後の課題である、バス待ち時間（サービス時間）とバスの到着時刻に相関があるのではないかと、立っている人が座らない理由の一つとして衛生面がある、などの議論が行われた。